

第81回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

2004.10.16 東京都立川市(陸上自衛隊立川駐屯地~昭和記念公園)



第81回東京箱根間往復大学駅伝競走(来年1月2、3日=主催:関東学生陸上競技連盟、共催:読売新聞社)の予選会が10月16日午前8時30分から東京・立川市で行われ、陸上自衛隊立川駐屯地をスタート、市街地を経由して国営昭和記念公園にゴールする新コースで、36チームが熱戦を展開した。例年に比べ気温が低く、レースはハイペースで運んだが、本学陸上競技部は攻めの姿勢を崩さず、見事6位で箱根路への出場を決めた。主力選手に故障者が相次ぎ、危機感を募らせていただけに、関係者の瞳が輝き、口元がほころぶ。選手たちの表情には喜びがゆっくりと広がり、やがてそれは、箱根への闘志あふれる引き締まった表情へと変わっていった。

平成17年1月2、3日に行われる本戦は、シード校10校と今回の予選会を突破した9校、関東学連選抜の計20チームで争われます。皆様の熱い声援は、必ずや選手の力となります。どうぞ両日は、是非沿道に立って、選手達の箱根のドラマを盛り上げてくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

総合順位	大学名	総合記録
1位	早稲田大学	10時間09分07秒
2位	大東文化大学	10時間10分34秒
3位	明治大学	10時間10分52秒
4位	専修大学	10時間11分06秒
5位	山梨学院大学	10時間11分49秒
6位	中央学院大学	10時間12分04秒
7位	拓殖大学	10時間12分24秒
8位	城西大学	10時間12分41秒
9位	帝京大学	10時間13分51秒
10位	東京農業大学	10時間13分55秒
11位	国士館大学	10時間16分20秒
12位	國學院大学	10時間17分57秒
13位	関東学院大学	10時間18分21秒
14位	平成国際大学	10時間19分48秒
15位	流通経済大学	10時間22分14秒

選手名	記録	総合順位
中東 亨介	1:00'07"	12位
石田 直之	1:00'31"	21位
藤藤 淳	1:00'58"	43位
梅田 将一	1:01'02"	48位
天野 達也	1:01'11"	63位
江藤 裕也	1:01'27"	84位
大内 隼介	1:01'33"	92位
島山 卓哉	1:01'34"	93位
細田 祐司	1:01'39"	101位
庵山 浩司	1:02'02"	119位
伊藤 達志	1:02'23"	142位
信田 雄一	1:02'40"	154位

3年連続 6回目

箱根駅伝出場決定

※予選会では、箱根駅伝出場枠9校のうち、6校が上位10選手の合計タイムにより決定。続く3校については関東インカレポイントを換算した選出となる。

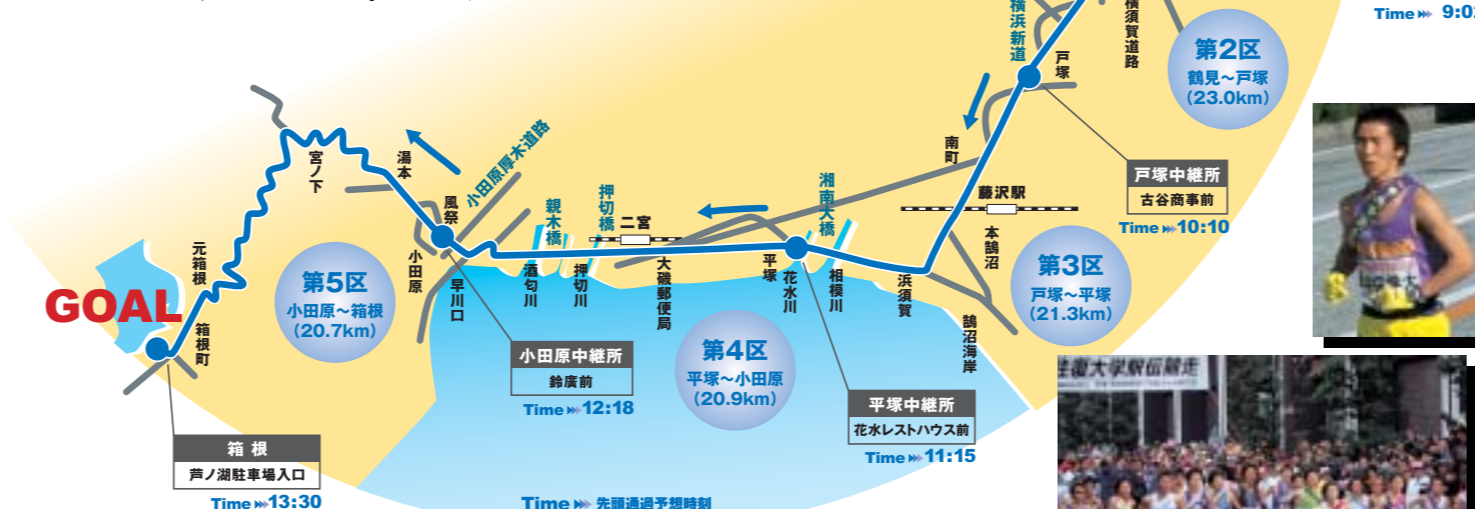


2005.1.2~3

箱根駅伝

第81回東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝は正式名称を「東京箱根間往復大学駅伝競走」といい、東京・大手町~箱根・芦ノ湖間の往路5区間(107.2km)、復路5区間(109.2km)の合計10区間(216.4km)で争われる学生長距離界最大の駅伝競走。大正9年(1920年)に始まり、今回で81回目を迎える伝統の大会。毎年、TV中継も行なわれることから、正月の風物詩として全国的に定着するとともに、学生ランナー達のあこがれの場となった。創部当初、本学にとっての目標は、本大会に出場することだったが、年々、厳しい練習を乗り越え、着実に実力をつけていったことで、シード権を獲得することに変わり、現在は上位入賞することが、チーム丸のローグンとなっている。



●各区間のポイント 解説: 陸上競技部 駅伝部コーチ 尾上 岳史

- 第1区のポイント** 各校とも、流れをつかむためには大事な区間。チームの2~3番手が起用されるケースが多い。コースは全区間を通してもっとも平坦だが、7.5kmの八つ山橋の下りと、18kmの六郷橋の下りがこの区間の勝負どころとなる。
- 第2区のポイント** 各校エースが起用される「華の2区」。最初の踏ん張りどころは14km付近の権太坂で、1.5kmの間に約20m上がる。中継所手前にも3kmに及びり坂があり、非常にきついコースとなる。
- 第3区のポイント** 戸塚の丘から藤沢市内を抜け、国道134号線に出るまでの約12kmは緩やかな下り坂。坂の勢いを湘南海岸まで持ちこたえることが重要になってくる。例年、美しい景観がテレビで紹介される区間でもある。
- 第4区のポイント** 平塚から小田原に向かう、20.9kmの区間。国府津までの12kmは、小さなアップダウンが続き、想像以上にタフなコースといわれている。この区間でレースはある程度落ち着きを見せる。
- 第5区のポイント** 箱根駅伝の象徴区間でもある「山登り」。宮ノ下、大平台、小湧谷の温泉郷を抜けて約13km、標高差にして834mも登ることになる。そのため、各大学とも登りのスペシャリストを起用する。

主将
中東 亨介
商学部4年



自分たちのチームは、古豪でも新参でもない、攻めていくしかないんです。それをやった結果、6位になったことを残念に思っています。まだまだ自分達は力不足ということを痛感させられました。春先、立川のハーフマラソンで、多数入賞した結果、心にスキが生まれ、故障者続出という結果を招いたことを、チームをまとめるキャプテンとして反省しています。この借りは必ずや箱根で返します。皆様の声援と後押しでいつも気持ちよくスタートラインに立たせてもらっています。今度は僕達が恩返しする番です。もう一度作り直して、必ず良いところを見せられるように頑張ります。

皆様の声援で
気持ちよくスタートに
立つことができます

- 第6区のポイント** 午前8時、芦ノ湖畔を往路の到着順に時差のスタート。往路でゴールが1分から10分以上遅れたチームは、先頭が出発して10分後に同時スタートとなる。下り坂のスペシャリストが要求される区間である。
- 第7区のポイント** 往路とは逆に国府津、二宮、大磯と走り抜ける。箱根の山からの冷気を背に受けてスタートするが、やがてほぼ真正面から陽光を受けて走るようになる。各チームとも、とにかくオーバーペースは避けようとする戦法がとられる。
- 第8区のポイント** 前半は、湘南遊歩道を走る平坦なコース。残り9kmから上り坂に入るが、中継所まで残り5km地点にある遊行寺の上り坂が選手を苦しめる。このあたりから優勝&シード権争いも次第に熱をおびてくる区間である。
- 第9区のポイント** 準エース級の「裏の華の2区」。スタート直後は下り坂が続くリズムに乗りやすいが、起伏の多い長丁場のため選手と監督の読みが最も問われる。ポイントは8km過ぎの権太坂。レースの駆け引きは見応え十分。
- 第10区のポイント** 75回大会から日本橋回りのコースになったため、2・9区と同じ最長区間となった。1区と同じく、コースはほぼ平坦。チームの順位もほぼ決まってくるため、選手自身が自分の走りを見失わないかが重要である。

●過去の大会成績

総合順位	大学名	総合記録
1位	駒澤大学	11時間07分51秒
2位	東海大学	11時間13分48秒
3位	亜細亜大学	11時間16分17秒
4位	法政大学	11時間17分42秒
5位	順天堂大学	11時間17分45秒
6位	東洋大学	11時間18分18秒
7位	中央大学	11時間18分21秒
8位	神奈川大学	11時間18分33秒
9位	日本体育大学	11時間19分18秒
10位	日本大学	11時間21分48秒

総合順位	大学名	総合記録
11位	中央学院大学	11時間23分58秒
12位	山梨学院大学	11時間25分56秒
13位	大東文化大学	11時間27分25秒
14位	帝京大学	11時間28分21秒
15位	東京農業大学	11時間28分22秒
16位	早稲田大学	11時間28分47秒
17位	国士館大学	11時間33分34秒
18位	関東学院大学	11時間36分15秒
19位	城西大学	11時間42分15秒
20位	日本学生選抜	11時間47分50秒

総合順位	総合記録
第70回大会 (平成6年1月2、3日)	総合16位 11時間38分35秒
第71回大会 (平成7年1月2、3日)	総合12位 11時間34分10秒
第75回大会 (平成11年1月2、3日)	総合13位 11時間38分18秒
第79回大会 (平成15年1月2、3日)	総合10位 11時間17分33秒



TV中継
日本テレビ系列30局ネットワーク

1月2日(日) / 〈直前情報〉7時00分~7時45分
〈往路〉7時45分~14時05分
1月3日(月) / 〈直前情報〉7時00分~7時45分
〈復路〉7時45分~14時20分

副将
石田 直之
商学部4年



4年生が頑張ればチームの勢いがかかります。今回の予選会には、4年生として絶対に結果を残さなきゃいけないという気持ちで臨みました。それなのに、今回の走りが不甲斐ないものになってしまったことを後悔しています。途中、給水地点でのトラブルもあり、結果が出るまでは内心ドキドキでした。前回の箱根の失敗を取り返すことが、僕のモチベーションを上げる源です。今度はもう一度、生活面も含めて見直し、箱根では悔いのない走りをする。僕のホームページにメッセージを寄せてくださる皆様、どうもありがとうございます。皆様のご声援から、いつもパワーをもらっています。

前回の箱根の失敗を
取り返したい

▶ <http://www.h6.dion.ne.jp/~naoyuki/>

2004
|
2005



箱根駅伝出場
皆様のご声援よろしくお願いたします



中央学院大学

2004.11.7 秩父宮賜杯第36回全日本大学駅伝対校選手権大会 全日本大学駅伝出場

2年連続 2回目 ご声援よろしくお願いたします。

11月7日(日)、愛知県名古屋市の熱田神宮をスタートし、三重県伊勢市の伊勢神宮までの8区間106.8kmをコースに開催。前大会の上位6校のシード校に加え、北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国・四国・九州それぞれの学連における推薦校を合わせた25校によって「真の大学日本一」を目指す。
本学は昨年、初出場ながら見事6位入賞を果たし、強豪校を抑えシード権を獲得した。箱根駅伝を占う前哨戦として、熱い戦いが期待される。

TV中継 | テレビ朝日系列25局ネットワーク
11月7日(日) / 8時00分~14時20分



中央学院大学陸上競技部 選手リスト

選手名	学部	出身地	出身高校	選手名	学部	出身地	出身高校
4年				1年			
主将 中東 亨介	商学部	大阪府	大阪学院高等学校	伊藤 達志	法学部	栃木県	那須拓陽高等学校
副将 石田 直之	商学部	千葉県	東金商業高等学校	篠藤 淳	商学部	兵庫県	飾磨工業高等学校
寮長 高山 卓哉	商学部	秋田県	花輪高等学校	土谷 和幸	商学部	千葉県	中央学院高等学校
加藤 貴之	商学部	群馬県	前橋育英高等学校	細田 祐司	法学部	愛知県	愛工大名電高等学校
小宮 祐介	商学部	栃木県	作新学院高等学校	深沢 達也	商学部	群馬県	桐生工業高等学校
				木村 聡寿	商学部	愛知県	豊川高等学校
				中川 健太郎	商学部	福井県	美方高等学校
3年				松浦 貴之	商学部	兵庫県	伊川谷高等学校
陸山 浩司	商学部	兵庫県	神港学園高等学校	前澤 賢	法学部	栃木県	茂木高等学校
江藤 裕也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校	高村 僚次	法学部	神奈川県	秦野高等学校
信田 雄一	商学部	千葉県	拓大紅陵高等学校	高田 歩	法学部	栃木県	作新学院高等学校
梅田 将一	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校	白石 匠	商学部	千葉県	中央学院高等学校
杉本 芳規	商学部	兵庫県	兵庫工業高等学校	大内 陽介	商学部	茨城県	水城高等学校
主務 千葉 敬弘	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校	池田 政輝	商学部	兵庫県	姫路商業高等学校
				木原 好隆	商学部	埼玉県	松山高等学校
2年				佐治 弘樹	商学部	兵庫県	須磨友が丘高等学校
天野 達也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校	森崎 祐太郎	商学部	兵庫県	明石南高等学校
池田 智計	商学部	兵庫県	須磨友が丘高等学校	角田 隼人	商学部	群馬県	前橋育英高等学校
井上 正之	商学部	愛媛県	八幡浜高等学校	本橋 佑哉	法学部	千葉県	安房高等学校
大塲 隆紀	商学部	埼玉県	飯能高等学校				
大平 剛士	商学部	大分県	大分商業高等学校				
各和 芳幸	商学部	栃木県	作新学院高等学校				
高山 拓郎	商学部	大分県	竹田高等学校				
田中 康二	商学部	広島県	如水館高等学校				
中村 充	商学部	大分県	鶴崎工業高等学校				
高山 善孝	商学部	宮城県	仙台育英高等学校				
星野 雄介	法学部	神奈川県	市立横須賀高等学校				

指導スタッフ

部長	阿部 悟郎	中央学院大学 商学部助教授
監督	川崎 勇二	中央学院大学 法学部助教授
コーチ	尾上 岳史	中央学院大学 駅伝部コーチ
コーチ	青木 栄	JAL AGS
コーチ	町田 次雄	HONDA
顧問	小林 敬和	中央学院大学 法学部教授

中央学院大学 | 〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451 TEL: 04-7183-6501(代)
http://www.cgu.ac.jp/

学長 大久保 皓生



今年は惜しくもシード権を逸した箱根駅伝でした。この度、予選会を勝ち抜いて連続三度の出場権を手にすることができたことは、誠に喜ばしく、選手諸君にはもちろんのこと、指導にあられた関係者の皆さんに心からなる敬意を表します。

予選会の前までは、故障した選手が多く、十分な練習をこなすことができずに、思い通りの結果が出るか否か危ぶむ声も聞かれましたが、その一方で、下級生が頑張りを示したことはチームワークの勝利だったといえると思います。一部マスコミのいう雑軍団の本領を発揮したものといたえるでしょう。昨年は「新しい伝統になってゆく予感がする」といいましたが、連続出場を果たしていることにより、本学の伝統として定着してゆくものと確信を強めているところです。

シード権獲得に期待し、胸膨らませている学生諸君もまた駅伝を盛り上げる参加者であります。CGUの旗のもと心をひとつにして応援してください。

卒業生、ご父母、地元住民の皆様、日頃ご支援を頂いておりますことに心より感謝申し上げますとともに、改めて若きエース達にご声援をお送りください。

選手諸君、新たな伝統に向かって箱根路を走り抜け!!

陸上競技部 部長

阿部 悟郎 — 温かいサポートに感謝しております —



過日、かねてより、皆様にご心配頂いておりました、箱根駅伝予選会が行なわれました。かく言う私も薄氷を踏むような心境で、レースを見守っておりましたが、おかげさまで、本学は6位という成績で、3年連続6回目の箱根駅伝本大会出場権を獲得することができました。

今回のレースに至るまでには、主力選手の故障が相次ぎ、関係者一同、不安を抱えながら予選会までの毎日を過ごしてきました。特に学生たちは、なかなか士気が上がらず、精神的に苦しんだことと思います。そのような状況下でも、予選会を通過できたのは、いつも温かくサポートして頂ける、皆様のご厚情あってのこと、心から感謝申し上げます。

思えば、10年前は手弁当でのスタートでした。それが一年一年、ご支援くださる方が増え、現在のよう環境が整ってきました。はるばる遠方から応援に来てくださるご家族の方々やOBの方々も多数いらっしゃいます。本当に幸せなことだとしみじみ実感しております。

箱根駅伝まであと2ヶ月。この期間は長いようで短いです。ただ、やるべきことは山ほどあります。部員一同、目標を高く掲げて、日々の鍛錬に精励するつもりです。是非、当日は沿道へ声援において頂ければ、ご幸甚に存じます。

陸上競技部 監督

川崎 勇二 — 箱根駅伝では上を狙う —



今年の正月の箱根駅伝が終わってから、予選トップ通過、本戦は5位以内を目標にやってきましたので、正直、今回の予選会の結果は残念のひとつ。故障者が次から次へと出るなか、なんとかチームとしての形を作って走れる状況にはもっていったのだが、甘くはなかった。これが現時点での力と受け止めざるを得ない。

チーム状態に波はある。調子の良い選手もいれば、悪い選手もいる。ただ、毎年、同じ練習をしていてこの結果ということは、まだまだスキがある。何か落ち度や、もう1回見直さなきゃいけないことがある。このままでは箱根駅伝に参加するだけになってしまう。来年またここに来なきゃいけない。それは避けたいこと。我々は上を狙う大学。出るだけの時代は終わった。

今回の予選会は、1・2年生がよく頑張った。練習の成果を結果として出せたのは、自信につながると思う。攻めのレースができたのも、次につながっていくはずだ。不本意な結果ではあるが、箱根駅伝に出られるという最低限の権利はもらった。その権利を活かし、箱根駅伝が終わった時点で、みんなが本当に心から喜ぶようにしたい。

関係者のみなさまの支えにはいつも感謝しております。正月の2日と3日はテレビに映るよう、もう1回仕切り直していきます。今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。